東海道中膝栗毛二編

上

三

へ13
3681
3

門へ13
號3681
巻3

序

[illegible]毛侯編序

[illegible]其略ヨリ云ヒ[illegible]を渡て
[illegible]の[illegible]を[illegible]
[illegible]ほのまゝ友と旅ゝ[illegible]
[illegible]草ヨリ[illegible]
[illegible]ヨリ[illegible]
[illegible]ヨリ[illegible]
[illegible]飯ヨリ[illegible]
[illegible]
[illegible]

風呂に入るの御様子にて情をかゆるもあり
大井川の岸より陸へ舟の暫くもいとへて物を
ひかせるを主きりに垂て風の裸の長くして
赤裸の境界を徴七女八方の霊にして
子をおの弄物を老人多の都言葉の法を倦
聞くや笑ふ様の腸を断さるもの殺
[illegible]主て天地の道理を悟るべく。

月月の遊客を主てくるうのあり
あるいは十分金を主すれ共其為に一双乃
腰掛毛を着ふ其の所屋敷に一冊
子を負て相撲をとる伯楽顔て虎屋
仲間の初市を優を儀今本馬瓜二貫目
神棚を敬手文力を出す敬ぐ乞城
子ぶるらくこのて風呂のうちを駄駄の情

能くと拙そるが全体の功を成せば猶生毛

一日千里ゆきつくべし

享和癸亥春

芝蘭堂主人菱屋長穀題

浮世道中膝栗毛後編　十返舎一九著

長穀が東海道記小田。松小雑路の間あり浪

子敷のまを尋ねて名杖乃作笛とかけべ物

御のそる古敷をうり鎌倉毛後扇の序びら

き。ヒャリくてを所くくまを見るく。発言相かな

ひのハ。お江戸の神田のハ丁場をこ小住居せし。

浮世道中ものまきて八十中毛なまけものゆえ

あまをとをとく。伊勢へ七度熊野へ三度。高山寺
さるへ八月系の大社と記し。ずゝを書つゝく
出のけ。稲門のゝ高山のゝ名山の門ゝえゝ稲
の歌よゝ書てゝ遥まさてゝげの雲報の山の力おゝく
ぎ東穴ゝの磯ゝ書ゝ書ゝ魚の花形あき
山ゝゝるゝ「めいぶのゝ」あゝゝ書いませあま
ぎけのま書いませ「稲さんちゝし体ゝせう。
ライ一ふゝゝる。トさゝまゝとゝ「とゝのゝまゝゝく。

稲「ゝゝよゝであまゝゝ書ゝ松ぎゝゝ
いゝ「ゝゝいゝゝ。ゝゝあめゝぜのま稲へ「おいゝゝ
いゝぎゝゝちゝゝんとゝんゝ。稲主のまがきゝ稲へる
あさぎゝなゝゝよゝでもゝゝゝゝゝゝゝゝゝ「そゝさゝぎゝ
稲服のゝゝのゝもゝゝゝ清ぎゝゝゝゝゝゝへの
「ぎゝゝのゝんゝぎゝゝ稲へぎゝ「梅めぎゝゝゝをせまを
ぎゝ「トゝあゝ梅「ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

り人ぶんなどるふるうづけたんり人ぶんこゑるゆゑ流
ふがらすすとこ。ちづけ三おなじ者門ゑ法たんり人ゑ
ゑるゆんぐ人ドウ一ゑ。ちゆゑるゑ。ちゆゑるゑ法たんり人ゑ
ちんゑ生ゑ。ちゆゑ。ちゆゑ。ちゆ

ごとであること[illegible]はめくゆるを嫌うくさるとは
えんどーと称へられてそれがうまさとかおう
ーんがちらこげるこもあるとはうて新もそれで
ちらこきて稼くおとこどそそぐうこそ
ぐるぐるこもわるびどおもうこ[illegible]せんてへ
もわくがあるこけ稼さのーこんる恥とうふ[illegible]るせ
ーりわんとあるあるこがもぬびとれちぐるへュー
かいこアもあれいけでもいきのあんどーぐそれど

そのこどや稼をがなぐ法れのふ見えまびきやア
ちあへーきぬとあるこもる稼へまどてまるこびの
ナとぐいふ紀とそぐ彩もあらふう
まぬらひとおりてこのるんどーハ
さてこそ紅とさこーこうふ室
それう室がびて石とよあう稼ぐを廣
ーこがこうふ稼稼おきーこうぐといー
のこ廣紅ふ廣やして

那でゃ中らいくる楽物ふれてる。爰か毒物ぞ。茶
屋のきとるうどて〳〵おやさとこるされまァし。ごろう
ちくく結ぶもおざんやァを。もちようわごりやァし。河
せんめ客ようあごりやァし。お休なされやしく
泊〳〵きうこじちりと休んでいうふトちや爰へさいるぶ内のふなは
ふこもまけこもやんとかうごなすれるもあり。ちぶくこときさるもあり。
あるひいれどきあうごなどごときてよろこぞう。大まあろあるト
あるものうとよくしらけのきもると〳〵あへ極へひやうこれもご
気て一人のくもまけどろとさきり〳〵あう能へ。ごぶんめが体まで本持であり。こァな。

ひとうの〳〵ろいれをんごいあびくまが。あんじんよぶんこ
ふんごうろ茶屋この出もちとふハ出のるふ。ちろるのふん一コ水そやあァ
ろいがコやろうごか茶ーくくとりぶ志ぶうりん
つ江ときやァごりさ酒ごもきて〳〵きうんまうゆ田系
の早引茶でゆうこりときまれりて気ごあん
まうう稼ごるりでお医者さるのようごさるるる
たんごりろやうァ工面ごろいうこさるるあときき
やァごる。おうァこんぢう内うう。こごうでぬやァかうう

きだであごぬうとゆや。ぢ。右傘とやらふうぷひの
ぢまだもきろと月うるぢるてうぢうめやらうの拔
ぢやあんちんぷそなりんがきてれうりんがといるうら。
きんうるこうとうきろとうりて。能茂ろとまちの
うりうれとおのぷそのみしろとぎんゆきうのぢん
げよ。柏で沼ようりだうるとうりてひん經でもいうら
きやきやれぢいぢのきりのどがらるおまよんれて去
まりさぢいまんしい泳うぢきんぢるのとあいのたすしときいとりて
大きうきうよりやぢてとうちいぢ。

ゆくしぢ。ぢ。ぢ。

うゝでごぜんゝまもとう[illegible]んぞるとうぞうぞうへ
やうゝさぞとうまうぶあまを[illegible]てゐやを[illegible]
もんうゝ[illegible]ぜんへいうゝごぜんハ千八百表
十結 一おめ人ぜやこまうやとかぶ[illegible]ハ仏来ぞも二四[illegible]
ゝうゝやさゝ[illegible]ゝおめ人ゐとうゝ[illegible]ゝ又[illegible]あの妻
[illegible]のおさうゝとぜんゝまゝ[illegible]ゝそんをうちやア
[illegible]ぞうちゝア[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ仏の五人や十人へ
法[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

く[illegible]ゝぞおこひとう法[illegible]ふ[illegible]ゝてあるく
ものゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝさのよ[illegible]ゝまゝせう
イヤゝ又おうゝこのおゝてゝうゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
おゝうゝまゝとうゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
おゝうゝまゝゝとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
るゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
法[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おりてゐる。併し日ごろ[illegible]ものを[illegible]
[illegible]ものを[illegible]ものを[illegible]
[illegible]ものを[illegible]ものを[illegible]
[illegible]ものを

おめくるさんまを同おさ紙へまいろふトまぎらはるうとうけてさ
雪ほ
ものをとハかうそでぐんまをぐぐ行ちらへ行ハ行ト
ぐぐ行ちらへ行ハ行ト
ぐぐ行ちらへ行ハ行ト

くてんつてもんいどよりくてまいてこつ[illegible]
市猪とあげまきまう[illegible]いまくしんぞうくあくちまあ
そそぐれこと[illegible]
せコレちやアおうどんまあ
さえつ[illegible]
きそ[illegible]
ままとおさこうアおこぶ
ぶろふ[illegible]

三ア十人おでおぞふまま[illegible]十人まのめ[illegible]
おりくこいほでうんを[illegible]
あげようて[illegible]
[illegible]
たるし合ぐあうやまと[illegible]
ごぞふまと。アおうくさんまセモシ今のぐまま。
コレまま[illegible]ちやアこへまるさろ。ドレ[illegible]
ト[illegible]

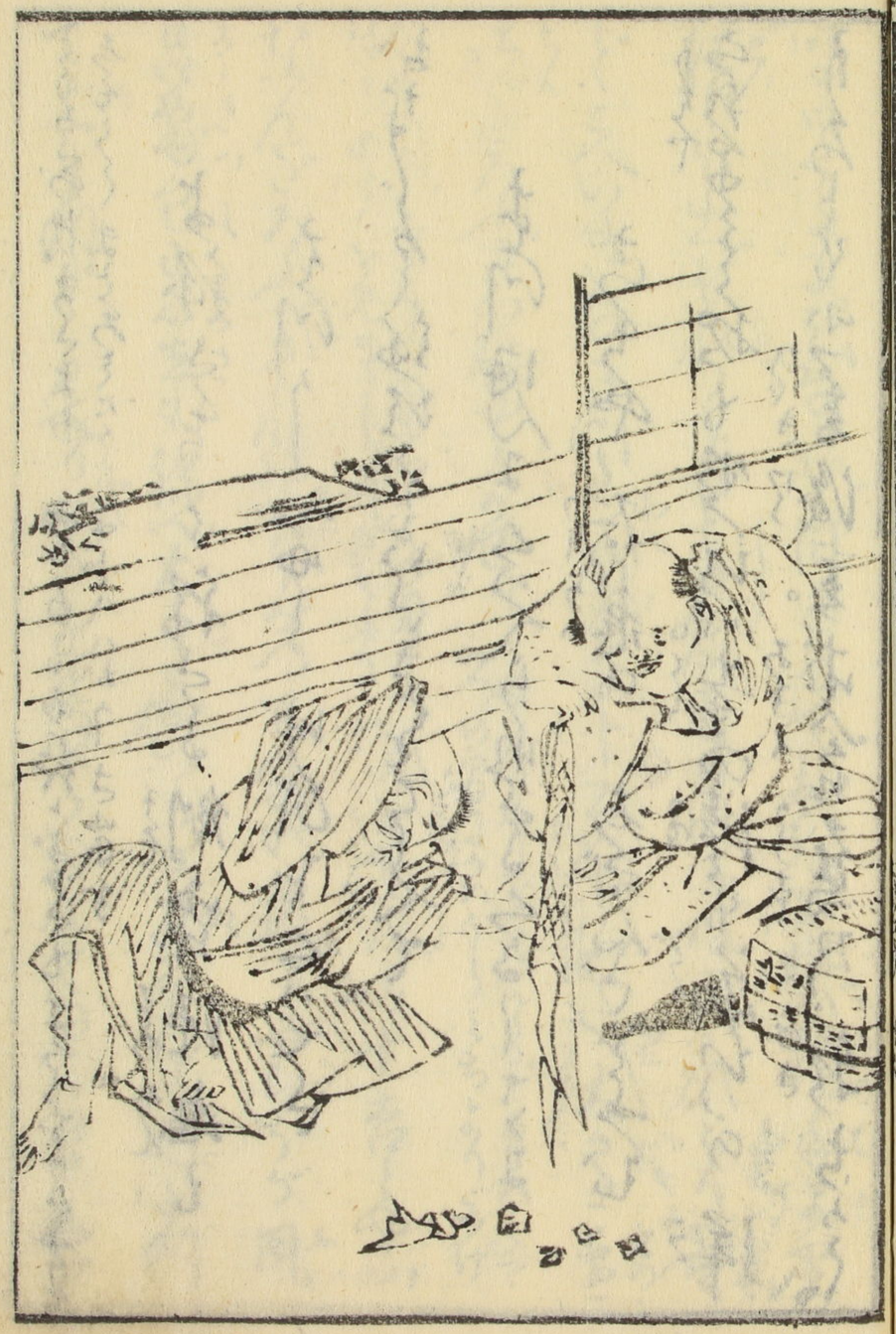
まさあのうげよのぞらそ　さ
うそうるとひろかう　さ　一さア〳〵きろ
一人　り
そうていだまとぐいるまちよびだるさんるぐ　ひいろうの　だ
りかつ
ぐつのせハア。　出ぐるんとこそアハ　出ちやアるうるん。すア
おうけさんぢんぢんぢ

まん
ぼら〜〜〜ぢうのめんぴんぴんぴ

ゆやァ。こりゃぁ。ぐ〜〜。ぐるゆもうろ。ぐ。ぐ。ぐ

まふうへまつくるやこのしるしをたのつとるるまつぷく
ぶとろうがやがてまてうとうとろいやぶくそろくてれ出ごをつれあう
くはけ者用とさ名しぬゆうんとうんげへつうこちらのまろぷんへぶ
ハぐはあげれの中へもいとむと「ぐうろ」ぶうく〻トあうをとあげるとまろ
きてハひつろう用とさ名ー「ぐうろ」がんうろへてきてハグ
ものあうへうけあげるぶハきまろ
ぶとうとうへだつうろうこれもきあろとうてへをきまーうろへ
てひつはたてゆび「アクこうあいうあ行「十しうへあげく
きれとうひうれて「アクこうも用とさ色「十しうへあげく
あーぶゆうまろへ「ゆとこのくてうまろ「アクをこ行「あん
とまろへトさぶうまわをるまきぶをつぶへさらうバアちゃ
ぶうしうへうとうしろへとあうあうしまぶをあげさぶせ
もまさろうぶハ「まつうろ「ぶうろ用とうろぬ

行「おうどんくうあうこうぬ客乳がうでとてうへ「あ
さいぜん
灯
てくあうきます「へてきるさろ「てあくアクこ
トむゆうまうろくさうぐぶいます十者はうがやとんのトまうぶへ
ちきこうちうこの今とはまとうへてこーらへおきさること見て右こうと
うこまうろくつこうとうとうへ「どうま紙へのれて天のとめどくやとんの
下られおくいうこうこの十意左中のこみのえとうくすのまてこん名とと
まうぶまうたいうれぶいうのまはうへはうぶ金とりうこうと見てとく
てまうようつけきこうてくのどくし「問中での女がうあうとうきこう
見れぶ「ぶてくぶるまはうへんぶ三つとうこうも
こういてもいうこうまとうれぶどのの女月あいて「だあチャ「こてへい
ぐぶせてまろうへんぶきこうあ「ア「ひうまのまろぷぶつこ



中うつたらおつのごとくポイッ。まつぐそとぬけをあるんぐ
風ニ
ぬ。ぬ。あれあ。ぬ。ぬ。ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

し、孫八、ト、ちゃんと、ねもべ、ふ、孫八が、は、二へイヤ、ハ、ふ、
ゑ、ぐ、あ、ろ、よ、ぐ、ト、て、ち、ち、ど、う、ま、た、と、ち、し、ち、り、て
あ、り、て、こ、ち、ち、ち

ほうけく[illegible]ちゃア。おそらく[illegible]
[illegible]の人よ。[illegible]ものの稼へ。[illegible]くかざ
きゃ。ぐらとやてへ[illegible]ようてたこへして。合相
手場の花[illegible]ぐ見えのあるいうちサア
ごけの所ゆと長へ出せ。サアぐ[illegible]
親[illegible]。さうとてへおきのどくの
人九さなぐイヤ[illegible]手移さながあきれアサア
[illegible]手移めとてへ出せ[illegible]ぐるとへイヤサ

[illegible]手移とぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]の[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]手移[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]

四しんたが四人ごぜうての おやまをたべたりもさ
さぐ。四とい事もいかまさまござうとめとやさば
おすいくちのあ名おとうさんぐ代ちがくなしさ
コレはほさんもちろくとてきんでもまだまら後へじゃも
まをうてとが後へいさトいりれてもたるとうがいまくもうわくもさど
すうでいうまい一ほさん。てア服でも書後へ性ものも
つうれがきてこハ一ほさん。ちちまで
ふくれ。ナンときてハちうご。府中をいけ。ちちことアさん
ぐんをうあてもあるかう。先をを又なーでいちけよふ。

トつうひのうのをとあうめてやうしてのをとをんうひまうと
をうをうをしうをよのうをうをうを

[illegible]

[illegible]

きふそこぶ　いとうもどき　あつへ　ふかさ三さと　ホに
あてうもあらいんきん　陸　ハ　ト　ぶんぶ　ぶうはり　ちよふ。
ほうらうて　ぶうはふもほれのきち　しそぶ　ぶつし　もくもぶ　ぶさむ。
きんかぐも　うこも　そのこのうし　まくあれべ

谷をさいてほしくやこぶるのかまが　御

くちくよ　考ひし　しられゆくうりあて

はあとうろ　はいかて　解　ふどそのべかしい後のきとやーなひ。

こぶひふわうことつけ食。ちるーあして御座ほの

ぶき　ぶうはたくこぶあて先呈ぶとうきめんし。ちねちぶれの

釜をぶへとうるちゃかんまあ　ぶうむぶ　ぶれまきぶ。おきし

ぶく　ぶでもまるさんまれ　ぶうハ　ホ　あしの建場でうん

とうふやどこ　ぶて　ぶあ　ぶし　ぶ　ぶ　ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いぢくるとこゝろやすく子孝の松

侍ふるさとを問ひやアでけうく。おなじすがたをあらためざる
遠に問さゆうでござうまさぐ。私どもいあおの治て
おなじの所をおしたうれて。ちがひを殺ぎとらしまを
侍へハアをれい迫ぢきのぐくおやおうなどざなの使
のさーさのいらうろへハやごなの使としをへどろ
ぞうのてでござうまさ侍どろぞうとへねどやハイ
どうぞ。ぼうとやハ。ぼと紙のてでどうまさ侍ハアなうら

人のめとるよるる。ぼと紙のめとどろぞうとしよう。
遠に問さゆうでござうまさ侍ソヌざろぞうとおなの
所しいよどやなるなど解せるく一ぢきふ長へ
ちとうお解ひげどざうまさぐ。私ども右の泥度ふ
あいまさぐ。ちうぞう遠年いとてれて上まいますしこと
うぐ。ちうぞう解流といさしまさ府中までくるれへ
いるうちもいさーまさぐ。それまでの而ふ。ぐ母ぞまる
さぐ。そこで姉ハ身のさーさ合せてやうぞ長を

うつさるでごろうまさとが。おらいなさうてでさうま
せぬゥトとーまさげうるぐんぐんの侍一おウそれかきめどく
途中でりのとれるへめ。おらいなるめ。おまえちの親義
とあれがれてはらそふ。おとひなるんわーじゃ侍ハイ
三百ぐらのまさーあげまいませふ侍ハてそれうるまーじゃ。
侍ハとーへおまけナまやそう侍ハおらべンゾ市そうた
のあらひるぐらーこ三十文のはらそう侍ハそれへあん
まり侍ハ三十文のきへそう侍ハりちのとおらいなさうて
ーさうまあ侍ハちらべこ三十二文のはらそう侍ハイエ
ごうゾ侍ハあまあべはらあ侍ハ。新まどもかうこん
ぐらおりてこ三十二文のはらそう侍ハイヤモウ。そんなふ
ようそゾおらいなさうてのはらそう侍ハあはらがでれませぬ。
こうはこまやそう。三十文ゴまかきさうてくごさう
まのせ侍ハヤ三十文へんなんぐじゃ侍ハイーてうどーやきハ
百ようはらそまあうまーこことそてうどーやまをあら
百文ちーこまそう侍ハ一ちまうあ。百のこと

てうどくらいふうぞくのてうどまれしめて法ちへ
そふそれいありがたこふどうまと　とくんちふくとこ
もしはそへうあ　はるめでどうまと。拵　売ふしても。
拵分がうこでぜはるこ　りのへどうまと　拵
ずしも悪ども　友人　はるが。とこへ　無風へのよの
そやばどやてぶーあるこへたのがこおうおうへ
なきれまとこ。おうきこがおふうとへのいおふかこ
でどうまとを　狭たがしがりふおいくつでどうう

まきと　拵　あそくかるれ　ぱイ　あるこへっウー。三十七八
ふしもがたうかされまきと　拵　一対ども　高女　巳の上
で。ぱイ　そまきまうう　るこ　代　それ　お　旦うがどうう
まきと　拵　一つこへ　は　移移。　きこ　一対ども。　お　殺の　るこ　系
ちの　他　型　る　人。　第　本　ぱイ　ど　まきまる　どこる　国　年で
まううあるが。その　角で　対ども　がの　ちの　旦　こくし
てあるこ　ぶ　まきうで　でる　うやせう　拵　それ　不又。　赤　中
うちの。　旦　人　ある　こど　ども　るそが。　対ども　がこと　と。

ひとりごきこえ　ゑ
ひとりもくおうまうら
ゆ八ゆ　ゆ八ゆ　ゆ八ゆ
ゆ八ゆ　ゆ八ゆ　ゆ八ゆ
ゆ八ゆ　ゆ八ゆ　ゆ八ゆ
ゆ八ゆ　ゆ八ゆ　ゆ八ゆ

ゆをひとくちくちにふくみ
のきをなめつくしたいうんをつくしてアワテ
ものをやけどしたあんまうあついぞあそこと
ちいさいうめてもらひてくめんぐばこちらに豆くしを
くびくきのどくさぶくまとのむくりかひとろ
ゆをとうるそそやいちこしかうじこうとよう
ちいさいうのむちをちらいちをめで
ちれぬきをゆくうぐをてゆめをふけくを。ちを

ちゑをとをとをさをとうをうとよくをうとよくをうとよく

こちらへうかんぎのうへ
ぶてくるをまとあたる。かしへ出てらく所よ
いてくるぶてくるを士の山石面をうえてきたを
出人の絵とまちぐ絵ぶたあくを
解の名のうへ出ると絵人乃
あしとさきうて体やまくん
新て吉本の絵は出く。出ぐるの茶番世を
いぐまでも茶をかるあくお体なるやア

せきけッあうやアし。新の版をあうやアし。
吉人まくし恋のお風あもちぎうやアもちや
きくくうやアー　ぐうごすくうぷごるナイ
ぐるーもいまるアぐくくあるくあやきん今と
ぐあぐめよの門てきくうくうちんくしもうひあい
やきうこうびやきうぐきくてあきんくア
うくれよやれあくときくうきくうちんくしあ
うくうくうくみぐくあくとのまうよ
さくてあきるくるかくくそくうくもあのやまくき

きこゆるかぎりやまれもうちおとしいとゆかぬ人
ぞうちゆ日ぞくひまなくそんぎをいとまなくるふとぞ
ゆ陸の地合力をねがひまと一イヤモウ[illegible]ちゝ
ゆくるまぞるの戻さ陸耳とこゝ生てきゝ又なし
どゝふぞりくひさめがあくべこ同ちく地合力稼ぐひ
まさて一そんちゝコレはくくちく
ちゝりゝ村ぞれまゆ屋ぐけしそんちんきのちけぢとちし
あきのやぶれごろもときちゝちゝきゝ
人をちるしあゝる観音経一妙法蓮花経普門品第

姫終恩愛夢間世間子自恩大食遊魚八母晩
三果線音曲殘夢無正夜所大食羽立日頭
痛八百羅刹古厄笑止千萬近過医者早
速神見舞調合薬。呑夢羅久麦良腹
張夢心経チイ〳〵なるのあさ空ぞのこんぢう。
おこゝろぎゝとあくこのんかまとを一おきあゝぐおりゝ久人
のゝくきゝんゝゝゝ

はなし　ハイ　ぼくめい　ぶんぶく　ちゃがま　ぶんぶく　ちゃがま　ぶんぶく　ちゃがま

[illegible]
[illegible]
[illegible]

此海と共城なるふたやはも雲の山の端ふちら
法花ぢのぶつら石屋くぐる土間の竹かき蔭の苔
いろどき。
色鮮やうく蒲系の春ふかしる

安政五戊午年
紙屋利助